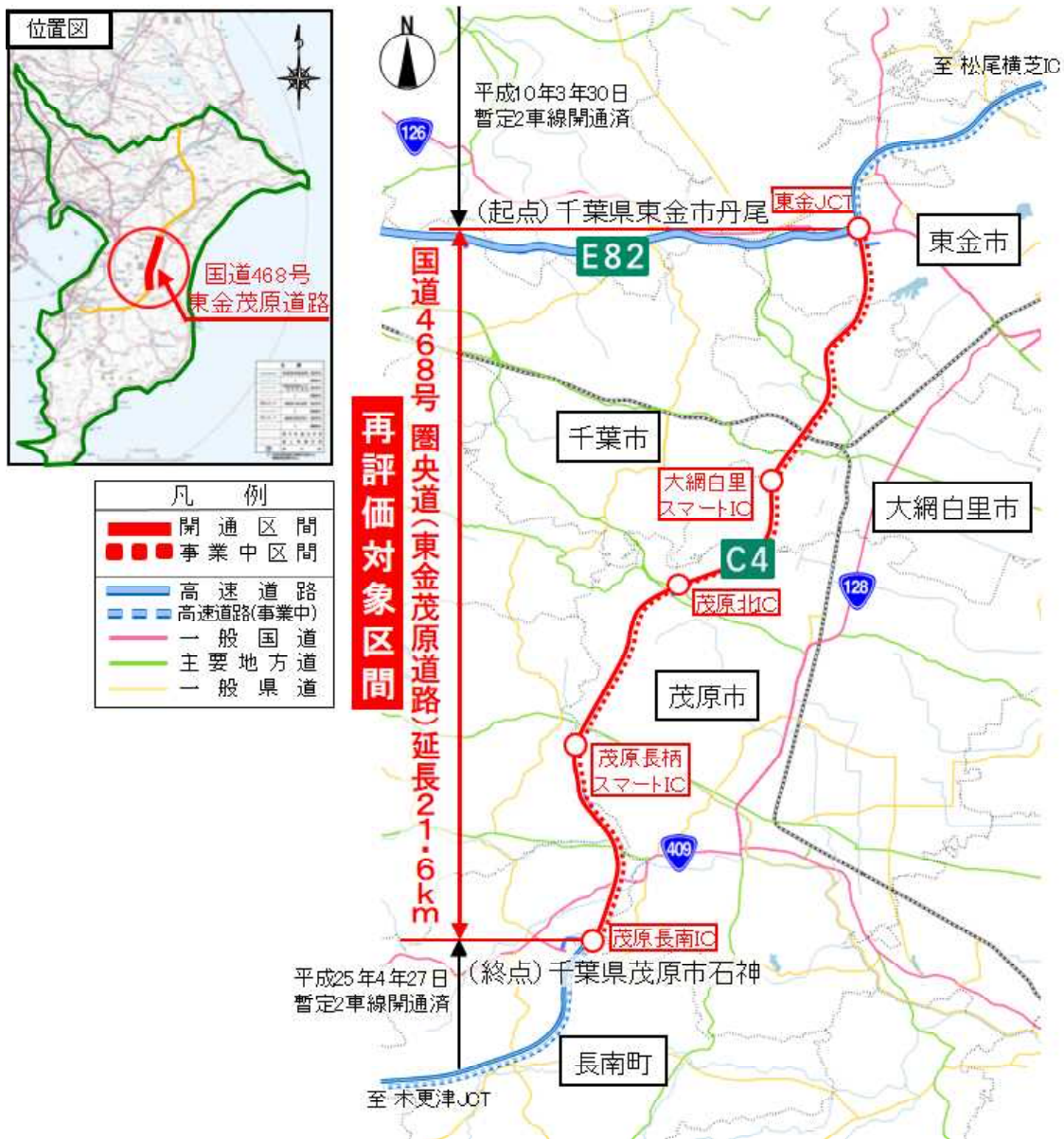


再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道468号 しゅとけんちゆうおうれんくじどうしゃどう とうがねもばらどうろ 首都圏中央連絡自動車道（東金茂原道路）	事業区分	一般国道 国土交通省 関東地方整備局	
起終点	自：千葉県東金市丹尾 とうがね たんのお 至：千葉県茂原市石神 もばら いしがみ	延長	21.6km	
事業概要 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、東京都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている延長約300kmの高規格幹線道路であり、3環状9放射道路ネットワークの一部を形成し、東京都中心部への交通の適切な分散を図り、首都圏全体の交通の円滑化、首都圏の機能の再編成等を図る上で重要な路線である。 東金茂原道路は房総半島における新たな自動車専用道路として、圏央道（茂原～木更津、横芝～東金）に接続し、東京湾アクアライン、館山自動車道と連絡することにより、千葉県と東京都及び神奈川県を結ぶ広域的な高速交通ネットワークを形成するものであり、沿線都市間の連絡強化、企業活動・地域づくり支援、災害時の代替路確保を目的とした延長21.6kmの自動車専用道路である。				
H13年度事業化	H11年度都市計画決定 H19年度都市計画変更	H16年度用地着手	H16年度工事着手	
全体事業費	約1,168億円	事業進捗率	供用済 供用済延長 21.6km	
計画交通量	17,500～23,000台/日			
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 1.4 (残事業) 6.5	総費用： (残事業)/(事業全体) 240/1,652億円 事業費：222/1,527億円 維持管理費：17/124億円	総便益： (残事業)/(事業全体) 1,560/2,371億円 走行時間短縮便益：1,493/2,249億円 走行経費減少便益：44/83億円 交通事故減少便益：24/39億円	基準年： 令和3年
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.3～1.6（交通量±10%） 事業費：B/C=1.4～1.5（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.3～1.6（事業期間±20%） 【残事業】交通量：B/C=5.9～7.2（交通量±10%） 事業費：B/C=6.0～7.2（事業費±10%） 事業期間：B/C=6.0～6.9（事業期間±20%）				
事業の効果等 ①物流の効率化 ・首都圏中央連絡自動車道の当該区間は、首都圏及び成田国際空港周辺地域の高規格幹線ネットワークを形成する。また、東関東道ルート等の主要渋滞箇所を迂回する新たなルートとなり、物流の効率化が期待される。 ②地域づくり支援 ・首都圏中央連絡自動車道の当該区間は、首都圏及び成田国際空港周辺地域の高規格幹線ネットワークを形成。 ・圏央道（東金茂原道路）の整備により、首都圏各地からの所要時間が短縮し、自然観光資源の豊富な長生地域がより身近となり、観光客の増加が期待される。 ③災害時の道路ネットワークの強化 ・災害時において、内陸部から東京湾岸部および県東部沿岸部の啓開・復旧ルートへのアクセスが可能となる。				
関係する地方公共団体等の意見 千葉県知事の意見： 圏央道は、アクアラインと一体となって、首都圏の各都市と成田空港などの拠点間を環状につなぎ、国際競争力の強化や地域経済の活性化を図り、災害時の道路ネットワークを強化する極めて重要な道路である。 圏央道（東金茂原道路）沿線各地域では、観光入込客数の増加や企業立地の促進など、経済に好循環をもたらしているが、当該区間は暫定2車線であり、ネットワークの機能拡充による生産性の向上等に加えて、安全で円滑な交通の確保や防災力の強化を図るためにも、早期の4車線化が必要である。 ついては、事業の継続が必要であり、4車線化の早期整備を図りたい。 千葉市長の意見： 圏央道の整備により、新たな広域ネットワークが構築され、本市の発展と道路利用者へのサービスの向上、更には大規模災害時における緊急輸送道路としての役割を担うことから、当該区間の4車線化及び圏央道全線の早期開通に向けた事業の促進を図りたい。				

事業評価監視委員会の意見	
事業の継続を了承する。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 圏央道「茂原長南IC～木更津東IC間」が暫定2車線供用（平成25年4月27日）。 ・ 圏央道「神崎IC～大栄JCT間」が暫定2車線供用（平成27年6月7日）。 	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成13年度に事業化。 ・ 平成25年4月27日に暫定2車線供用。 ・ 今後の交通状況を踏まえ、全線4車線整備について検討する。 	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の交通状況を踏まえ、全線4車線整備について検討する。 	
施設の構造や工法の変更等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大網白里SIC開通（平成31年3月）。 ・ 茂原長南SIC開通（令和2年2月）。 	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	
以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。	
事業概要図	



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。